

# 福

江島でシヨップ&カフェ、宿泊、ブライダル事業を手掛ける村野麻梨絵さんが美術館をオープンしたと聞き、六年ぶりに訪ねた。

「てとば美術館」は富江町の住宅街に佇む一軒家。五島をテーマにした作品が並ぶ館内には、とても温かな雰囲気漂っている。美術館のコンセプトは、「\*アーティスト・イン・レジデンスというスタイルで、五島の記憶をアートで記録する」というもの。麻梨絵さんは、アーティストの発掘・交渉から島内の案内、企画展の運営まで、すべてを担っている。

島に美術館を開いた理由には、こんな想いがあった。「私はこの島に住み続けたいと思っています。しかし、島では大好きなアートの触れる機会が少なく、地域の子どもたちに話を聞いてみても、美術館に行ったことがないという声が多く聞かれ、それなら作ってしまおうと考えました。島の子どもたちは漁師や公務員など、出会える職業が限られています。アーティストを島と呼ぶことで、子どもたちが「ちょっと変わった大人」に会える場所を作ったんです。また「ここには何もない」と

思っている島の人たちに、アーティストたちが描いた五島を見て、『私たちの島って、こんなにステキだったんだ』と気付いてほしいという想いもありました。こうして二〇二五年春、「てとば美術館」がオープンした。館内に飾られている作品はすべて購入することができる。麻梨絵さんは「意外だったのは、観光客だけでなく、多くの島の人たちが絵を買ってくれたことです」と、目を細める。この場所ができたことで、島の人たちは「アートのある暮らし」を手に入れたのだろう。福江島に移住して十一年。島の魅力を一言で語るのには難しいと言いつつ、麻梨絵さんは言



## 五島

Nagasaki Islands Goto Islands

もう一度、会いたい



# 五島に美術館をオープンした

村野麻梨絵さん

葉を選んだ。「いろんな人たちの居場所になるということでしょうか。かつて潜伏キリシタンが隠れ住んだように、この島にはいろんな人を包み込む空気感があると思います。そして、ここだから、私だからできることがたくさんあります」。麻梨絵さんは、滞在したアーティストが島を気に入ら、移住者になってくれたら、という願いも持っている。「この十一年の間に消えてしまったものもあ

りますし、島では、毎日のように『担い手不足』という言葉が聞きます。私にできることは、五島の文化がいかに格好いいかということ伝えることだと思っています」。花のような笑顔で信念を貫くその姿に、まだまだこの島には新しい風が吹き続けると確信した。

過去の村野さん紹介号! ni-ko-ri No.48

館内では毎回、アーティストのポストカードやTシャツ、缶バッジなども製作して販売している。

美術館の展示は1~2カ月ごとに入れ替えられるため、何度訪れても新たな出会いがある。

